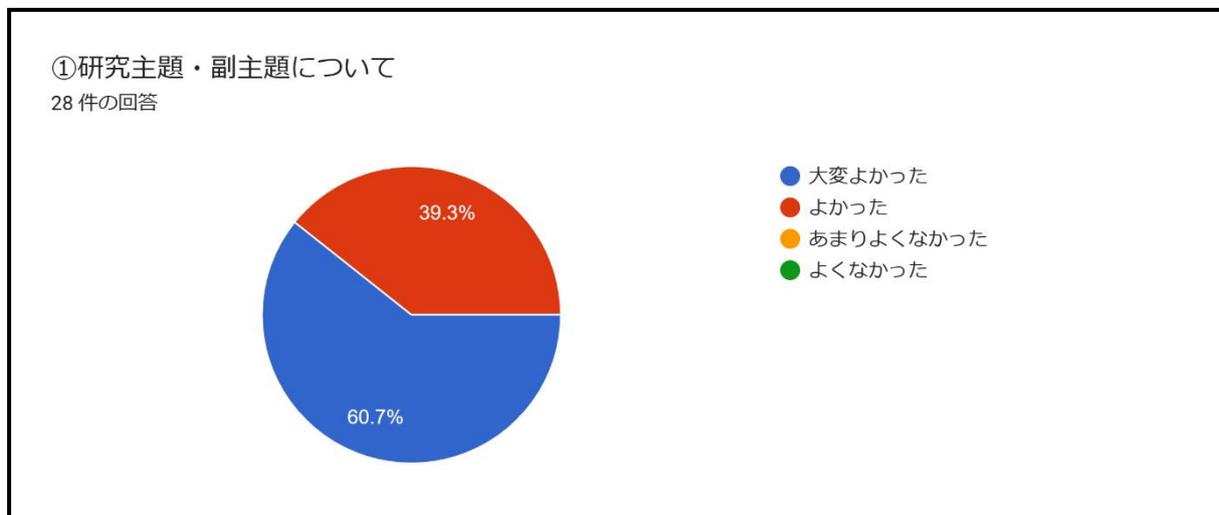


Ⅲ 研究のまとめ

1. 研究主題・副主題について

【先生方からのご意見】



〈継続研究について〉

- 研究3年目であり、私自身も年を追うごとに、論理的思考力の意義について理解できるようになってきた。そして、授業づくりの中で大切であり、論理的思考力を深めるICT活用や発問等難しさも感じるようになった。
- 継続研究3年目のまとめとなった。

〈論理的思考力について〉

- テーマがはっきりしていたので授業づくりがしやすかった。
- 今必要とされる指導法の一つだから。研究授業などをもとに各教科において論理的思考力を養うための指導法の工夫など多くのことを学ぶことができたから。
- 指導法を学ぶことで、毎日の授業にすぐにかすことができるから。
- 毎日の授業が基本になるので、指導法を深めていくことは大切だから。
- 論理的思考力を養うというテーマに沿った授業の研究や指導法の検討が行われた。
- 自ら学ぶという習慣ができることは児童の今後の学びの力になるため良かった。
- 児童の論理的思考力の育成は現在の日本で求められている力であるため
- 「論理的思考力を養う」がテーマであったため、児童の発言や記述に自分自身も注目して指導することができました。2年生の児童が、自分の考えを理由とともに伝えられるようになるにはどのような声掛けや場の設定が必要であるのか、試行錯誤しながら授業をすることができました。
- 考えを深めるという点で、単に答えを出すだけではなく、どうしてこの答えになるのかを考えさせる発問を工夫することができた。
- 昨年度までの研究を受け、児童の論理的思考力も育ってきているから。
- 今後も多様な人間性を持つ児童が学級に所属する可能性が高いと思うから。

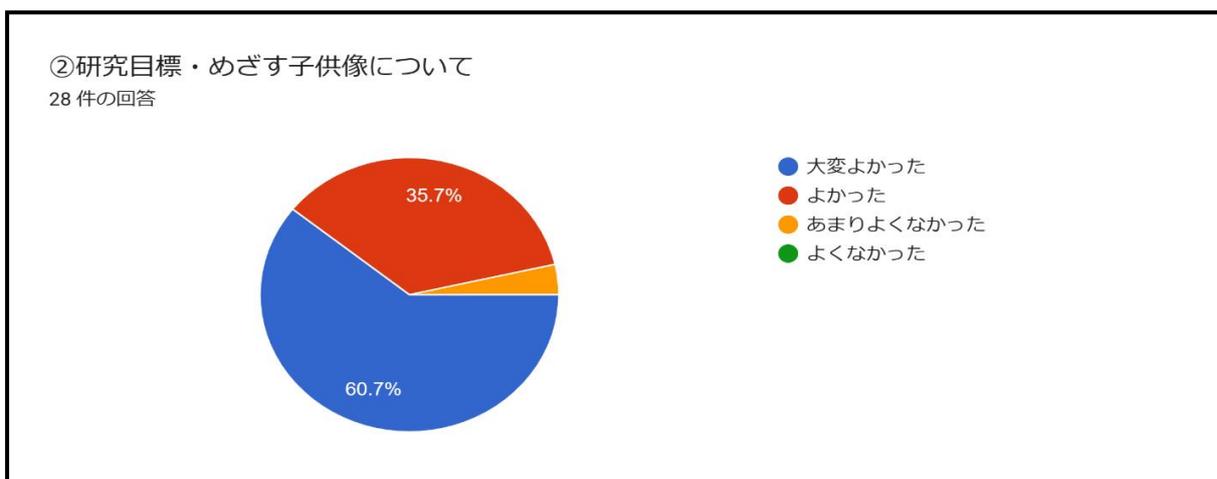
○論理的思考力を高めることにより，子供たちが自分の考えを相手にわかりやすく伝える力を身につけたり，いろいろな考えを知り自分の考えを深めることができるから。

一昨年・昨年に引き続き3年目の研究ということもあり，肯定的な意見が多かったです。一昨年度の仁美先生，昨年度の陽介先生が校内研究の土台を作ってください，3年目の今年度は見通しをもちながら研究を進めることができました。

1年間の研究の中で改めて日々の授業の大切さを感じました。「論理的思考力を高めること」はこれからの時代を生きていく子供たちにとって最も大切な力の一つであるため，主題は適切だったと考えます。

2. 研究目標・めざす子供像について

【先生方からのご意見】



〈めざす子供像について〉

- 発達段階で系統性を持つことができた
- 各学年の実態にあった。低学年では自分の意見を主張できない児童も多く，目標設定が適切だと思ったから
- 自分の考えに対し，根拠をもたせるような問いかけを行ったことで児童はとても意欲的に考えよかった。
- 低学年では難しい部分もあったかもしれないが，低学年のうちから取り組み，それを継続していくことで力が高まっていくと思う。

〈授業中での子供の姿〉

- これまであまり意識してこなかった子どもたちも，自らの思いを相手に伝えるためには，明確な根拠をもつことが大切であるということに気づくことができていたため，今後につながる授業となった。
- 「まず，次に・・・」など，図や言葉を用いて，自分がなぜそのような考えをもったのか伝えることができていたからです。
- 算数科の授業では，九九の求め方を根拠とともに記述したり発言したりできる姿が多く見られました。（「 9×3 は 3×9 の九九でわかる。」「どうして？」「かけ算は、

かけられる数とかける数が逆でも答えは同じだから！」など)

○様々な授業や場面で、繰り返し児童に意識させることで、発言や意見文などに「自分なりの根拠」をもって考えられる児童が増えた、と感じるから。

〈その他〉

○研究授業の様子その後の討議からも分かる通り、教師と子供たちが同じ方向を向いて論理的思考力に迫ることができていたと思うからです。

▲根拠がないと考えを深めるには至らないのではないかと思う。

▲よかったが、「適切な」根拠をもつための方法が難しかった。自分自身ももっと教材研究を進める必要があると感じた。

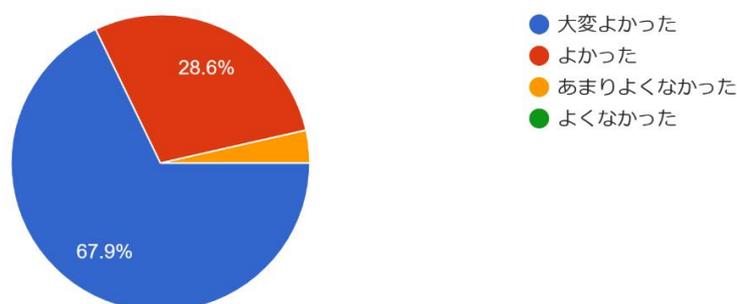
研究目標・目指す子供像についてはおおむね良かったと考えます。先生方が研究目標の達成に向けてご尽力くださり、実りの多い研究になりました。3本の研究授業の中でも、子供たちが「～だから…と考えた。」など、根拠をもって発言する姿も窺えました。一方で、「適切な」根拠をもつための方法が難しかったなどと、質の部分でまだまだ課題が見られました。教材研究をする際に意識したり、指導法を学んだりするなど、私たち自身も研究を続けていく必要性を改めて感じました。

3. 研究内容・研究方法について

【先生方からのご意見】

③研究内容・研究方法について

28件の回答



〈学習会・ICT研修会について〉

○学級経営や論理的思考力の指導法，ICTの活用方法など幅広く研究できたから。

○学習会があって大変良かったです。授業づくりのヒントになるような内容は、すぐに生かすことができるのでとてもいいです。

○夏季研修では、学級経営をする立場ではないが、それを支えたり、専門職として授業に介入する立場として、とても楽しく学習できる研修でした。

○実践だけではなく、講義で知識を得ることができたのはとてもありがたかったです。講師の先生方の講義も非常に楽しくわかりやすいものでした。

○今年度の学習会では、あらゆる角度から、多様な子どもたちへのアプローチの仕方について学ぶことができ、非常に参考になりました。

○ICT を活用することにより、自分にとっても子供にとっても学びの場が広がった。

▲研修が多かった。2本で良かったと思う。

〈授業づくりについて〉

○指導ポイントが明確になることで指導の方法が妥当かどうか検討することができるから。

○玉諸小の「話し方。聞き方」では、話し方名人、聞き方名人の表があり子どもたちも私も意識して取り組むことができた。

○先生方による質の高い授業実践を参観することにより、自分の授業に活かすことができた。

▲デザインシートをまとめることが難しかった。

研究内容・研究方法について、概ねよかったという意見が多かったです。今年度は「論理的思考力を養うため」に「甲府スタイルの授業」を拠り所として授業づくりに励んできました。「動き出したくなる課題」を意識することで、子供たちは課題を自分事として捉え、主体的に学ぼうとする姿が見られるようになりました。また「確かな発問」を意識することで子供たちの思考は深化・発展し、子供自身が考え表現する姿が見られるようになりました。「振り返り」では授業で学んだことをアウトプットすることで、その時間の学びを深めることができました。

また、子供たちの思考が「論理的」に考えるために、玉諸小の「話し方・聞き方」を取り入れ、言語活動の充実を図った。意識して指導することはできたが、内容・指導法共に改良が必要だと感じました。

夏季休業中に行われた2本の学習会についての前向きな感想が多かった。来年度は1学期に学級経営のお話が聞けると良いなと感じました。

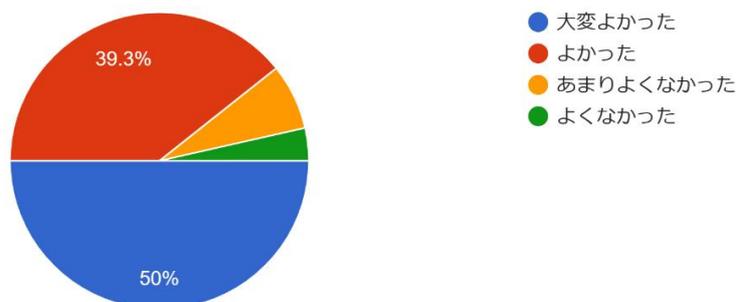
デザインシートについては、A3用紙1枚にまとめるため、要点を絞って記述する必要があると感じました。

4. 研究計画・研究組織について

【先生方からのご意見】

④研究計画・研究組織について

28件の回答



〈研究計画について〉

- それぞれの回で充実した研究を行うことができたから。
- 定期的に自己を振り返ることができるから。

〈研究組織について〉

- 低中高の3ブロック体制は良かった。
 - 人数的、グループの発達段階的にも、やりやすかった。
 - ブロックごとに指導案検討することで、様々な先生の指導技術を学ぶことができました。授業者ではありませんでしたが、自分の授業に活かすことのできる声掛けや実践もあり、勉強になりました。
 - 中学年ブロックは、ちょうど3学年の初任者がICTを使った授業をしたので、それも参観させてもらいながら、4学年の研究授業に活かすことができました。”
- ▲どうしても研究授業をする学年に負担がかかってしまう

研究計画については、よかったという意見が多かったです。来年度も年13回の予定。研究組織については、「やりやすかった」という意見がある一方で、「研究授業」を担当する授業者や当該学年への負担があるという意見もありました。「発問について研究する」「掲示物を作成する」等、もう少し細かく組織を分けてもよいかとも感じました。

5. その他（特に来年度の方向性について）

【先生方からのご意見】

〈継続研究〉

- ・継続で良い
- ・今年度の研究が来年度につながっていくような研究内容がよい。
- ・継続することで子供たちの力も高まっていくと思うので、今年度までの研究がつながっていくような内容が良いと思う。
- ・やはり毎日の基本は授業なので今年度と同様でいいのではないかと思います。”
- ・論理的思考力については、まだ研究の余地があると思われるので、来年度も継続研究という形もありなのかなとも思います。
- ・今年度同様、ICTの活用を組み込んだ形の授業研究がよいのではないのでしょうか。

〈その他のテーマ〉

- ・業務改善、働き方改革
- ・論理的思考力を高めるものだけでなく、働き方改革としての先生方の仕事術を知りたいです。
- ・ICT教育 ・授業のユニバーサルデザイン化について学びたいです。
- ・授業研究だけでなく、学級経営、支援が必要な児童に対する対応についてなど、学習会がもてると嬉しいです。
- ・来年度は教科書が変わるので、それに関わるような研究が少しでもできるといいな

と思います。

〈その他〉

- ・もし可能であれば、お忙しい中先生方も大変だと思いますが、以前行っていたウェルカム授業をしていただけたら嬉しいです。組んだことのない先生や自分の苦手な教科の授業をぜひ参観させていただきたいです。
- ・“気軽に実践の共有や紹介ができるシステムや雰囲気をつくりだせると楽しく、学ぶことができると感じました。掲示板での実践紹介など
- ・来年度、研究の題が変わっても、今年の話し方や聞き方、発表の仕方については継続して取り組んでいきたいと思います。

来年度の方向性については、「継続」という意見が多かったです。研究は3年周期だと考えていましたが、私自身も研究を進めていく中で「論理的思考力」の研究の余地を感じました。「適切な根拠」「思考ツール」「比較」「聴く」…等。

ただ、「ICT」「個別最適な学び」「協働的な学び」「ユニバーサルデザイン」「インクルーシブ教育」等、研究テーマは山積。2024年にはジャムボード廃止、来年度は新教科書。

「学び合い」はとても大切ですね。職員室クラスルームで高野先生が多くの体育実践を紹介してくださいました。今後も生かしていければと思う一方で、やはり「生」の授業を見るのが一番だなと感じたこの1年でした。まずは、同じ学年やフロアの先生の授業をチラ見したり、日直の戸締りで教室にお邪魔して掲示物を見たり、そんなことをきっかけに職員室で学び合いができればいいなと思います。

6 研究を終えて

今年度は、研究目標を「論理的思考力を養う授業を通して、自ら学び、考えを深める児童を育てる」と設定し、研究を進めてきた。そして、「論理的思考力を養う授業づくり」の拠り所として「甲府スタイルの授業」を取り上げた。中でも「動き出したくなる課題」「確かな発問」「振り返り」を意識し、探っていくことで、教師の授業への意識が高まり、授業の改善につなげることができた。また、「玉諸小の話し方・聞き方」を全校で取り組んだ。特に「話し方」については、考えの発表の仕方のモデルを示すことで、児童に定着するだけでなく、教師自身も意識して発問したり、活動を仕組んだりすることができた。

「動き出したくなる課題」を意識することで、子供たちは課題を自分事として捉え、主体的に学ぼうとする姿が見られるようになった。第5学年国語科「よりよい学校生活のために」の学習では、自分たちの生活を振り返る中で得られたクラスの課題をもとに、どのような取り組みができるかを話し合った。教科書の例とは違い、学級単位の課題について考えることでより身近なこととして考えることができ、意欲的な学びにつながった。児童の驚きや不思議さ、解決への必然性、既習事項との「ズレ」などの課題設定を取り入れることで、「面白そう」「よし、やってみよう」と児童が感じるような見通しをもたせることができた。

「確かな発問」を意識することで子供たちの思考は深化・発展し、子供自身が考え表現する姿が見られるようになった。低学年では、共通点や相違点を問う発問を第一に行なっ

た。第1学年算数科「ひきざん」の学習では、既習事項と本時の学習内容を比較させることで、子供たちの問いを明確にさせていた。問いが明確になることで、子供たちがスムーズに課題解決に向かっていった。課題解決後には、働かせた数学的な見方・考え方を明確にすると同時に、それを基にして他の計算を発展的に考えさせるということに繋げていた。高学年では、「いつでもできるものはどれかな？」と一般性を問う発問をしたり、「どのように考えたのかな？」と根拠を問う発問をしたりすることで、子供たちの思考が深化・発展するよう努めた。さらに、その根拠がなぜ主張と結び付くのか説明させたり、その根拠の優れた点や不十分な点について評価・吟味させたりすることで、その根拠が適切なものかどうか考えることにつなげた。このように、1時間の授業の展開には、発達段階にあった発問の種類及び組み立てを考えることが重要であることが分かった。また、子供たちが「〇〇さんと似ていて…」と自分自身の考えと比較したり、「〇〇さんの考えはこういうことだと思う」と友達の考えを説明したりするなど、教師からの発問がなくとも、子供たち自身で課題を解決する姿も見られるようになった。教師がよく練られた「確かな発問」を問うことで、子供たちの主体的に学ぶ力や思考力、表現力を高めることにつながったことは大きな成果である。

「振り返り」を意識することで、子供たちが授業の中で学んだことを自分の言葉で表現し、学びを深めることができた。また、教師自身が1時間の授業の中で何を学ばせたいかが明確になったり、子供たちの振り返りから、提示した課題や発問が適切だったかどうか振り返ったりすることにもつながった。第1学年算数科「ひきざん」の学習では、全体のまとめに加えて、ポイントをもとに学習感想を書くことで、学習内容を整理することができていた。中学年や高学年では、ノートでの振り返りだけではなく、Google forms やスプレッドシートを活用し、子供たちの学習理解度を数値化したり、子供たちの振り返りを瞬時に把握・共有し、授業のまとめに生かしたりしていた。

「ICTの活用」では、Google Workspace for Education の活用が効果的であった。第4学年算数科「計算のやくそくを調べよう」では、Jamboard を使い、数の求め方を考えた。ドット図のドットを実際に動かしたり、数字や線を簡単に書いたり消したりすることができたのは、論理的な自力解決をするための手助けとなった。第5学年国語科「よりよい学校生活のために」では、同じく Jamboard を使い、自分の考えや班の考えを整理した。視覚的に分かりやすく、子供たちが意見を発表する際の助けにもなった。どの学級でも Chromebook の使用頻度が高まり、「試しに使う」から「効果的に使う」という次のステップに進み始めている。

上記のことからそれぞれの手立てにより研究目標にある「自ら学び、考えを深める児童を育てる」ことは、おおむね実現できたように思う。

現行学習指導要領では、知識・技能、思考力、判断力、表現力だけでなく、それらの活用の仕方や、自分自身で問題を発見し、解決に向かう意欲、さらには多様な集団における人間関係の構築の仕方などを身につけさせていかなければならない。「自ら学び、考えを深めることのできる児童を育成する」ために、我々教職員も主体的に学び続けていきたい。